

# センターだより

平成23年7月5日

NO. 41

東濃西部少年センター

TEL・FAX 23-3455

## 山あいに 夏雲生まれる 七月です



昭和61年7月1日

全国紙朝刊の題字下「一日の言葉」より

所 長 石原 憲  
指導主任 小林 拓市  
事務担当 柴田 弥生

今年度も5月末の委嘱式をもちまして、青少年の健全育成に関わる各種団体から推薦された3地区総勢198名の方々に、少年指導員の大役をお引き受けいただきました。ちなみに、地区別指導員の経験年数等による構成は以下のとおりです。

( ) 内は22年度実数

	新任	留任		計
		1～4年	5年以上	
多治見	63 (49)	20 (34)	19 (17)	102 (100)
瑞 浪	16 (19)	13 (11)	9 ( 8)	38 ( 38)
土 岐	26 (29)	27 (22)	5 ( 5)	58 ( 56)
計	105 (97)	60 (67)	33 (30)	198 (194)

なお留任の中には、5年以上もお務めいただく方々が33名、そのほとんどが各地区で役員や班長として、指導的立場でご活躍いただいています。これこそ、無償の行為の最たることとして、心から敬意を表します。

さて、指導員の皆様には、青少年の健全な育成と非行の防止のためにこの1年間、子どもや若者へのたゆまぬご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

また、関係機関・団体の皆様にも、日頃からご理解ご協力をいただいております。感謝申し上げますとともに、今後ともセンター業務の円滑な推進に対して、一層のご指導・ご鞭撻がいただけますようお願い申し上げます。

4月の土岐市長選で、初当選された加藤靖也さんには、これを機に東濃西部広域行政事務組合の副管理者を、お務めいただくことになりました。

ご就任にあたって、青少年の健全育成による熱い想いを「地域教育アクション7」で語っていただきました。

## 青少年の健やかな育成を願う

土岐市長 加藤 靖也

「青少年の健全な育成」は、東濃西部の多治見市、土岐市、瑞浪市すべての地域の願いであり、地域の健全な青少年たちこそ、これから将来に向かって元気なまちづくりを推進していく原動力でもあります。

さて、土岐市では平成22年度に「土岐市教育振興基本計画 夢・絆プラン」を策定しました。その基本計画の中には、「家庭の教育力を高めます」「地域の教育力を高めます」「地域づくり型生涯学習を推進します」が施策として掲げてあります。

その中で、「家庭の教育力を高めます」とは、子どもたちに基本的な生活習慣や豊かな人間性がはぐくまれるよう、学校や地域と連携し、家庭教育の向上を図ることです。

「地域の教育力を高めます」とは、子どもたちを健全に育成するために、地域の教育力を高め、地域ぐるみで学校を支援し、子どもたちをはぐくむ活動を推進することです。

青少年の健全育成のため、地域での実践力を高めるために地域で取り組める具体的な行動として、「地域教育アクション7」があります。

- |           |              |
|-----------|--------------|
| ① ゆるしません！ | 見下げた言葉 差別言葉  |
| ② 広げます！   | 心をつなぐ挨拶の輪    |
| ③ 見守ります！  | 児童生徒の登下校     |
| ④ なくします！  | 有害図書や有害情報    |
| ⑤ 向き合います！ | 青少年の多感な心     |
| ⑥ 育てます！   | 地域の行事 地域の文化  |
| ⑦ 増やします！  | 花のある町 ゴミのない道 |

この7つの行動すべてに私たち大人が取り組み、地域の子どもは地域で守り育てていくことが非常に重要であると考えます。

そして、家庭と学校と地域が連携し今年度も「愛の一声」を合言葉に東濃西部の全域が一丸となって地域ぐるみで、明るい家庭と、明るい町づくりに取り組み、青少年の健全育成、非行防止、安全確保のための活動を推進していかねばならないと考えています。

# 今 高校では

## 生徒指導の役割

東濃西部少年センター運営協議会委員  
土岐商業高等学校 校長 臼井 孝昭

生徒指導というと、未だに学校の中の警察のような役割をしている、おっかない所というイメージを持っている人が結構いることにびっくりすることがあります。

「生徒指導部(名称変更になっている学校もある)の先生は特別な人で、他の部署の先生とは違う。」と堂々と言ってはばからない人も、かつては少なからずいました。

現在の生徒指導で行っているのは、虞犯行為を起こした生徒への対応は言うに及ばず、校内規律の確保、教育相談的対応、交通安全指導（MS リーダーズ活動への支援）、人権教育・特別支援教育的配慮、生徒会活動の支援、対外的な苦情の対応と多岐にわたっています。

「生徒指導はあらゆる教育活動の中で、すべての教職員が行う機能である」と解釈されているように、生徒指導なるものは教職員が子どもたちと関わる行為そのものです。

挨拶から始まり、授業中のノートの取り方はもちろん、友人関係の持ち方や、今では望ましい男女交際までがその範疇になっています。

私などは真面目に恋愛論や、性教育を生徒を前にして講義するのは正直言って気の重い仕事でした。

一時期の管理至上主義のような指導は鳴りを潜めています。ゼロトレランス(非寛容)に代表されるような、行為の是非を生徒側に厳しく求める姿勢は、誤った個性偏重の反省から生まれてきたものです。賛否はありますが大事な生徒指導方針だと思っています。

10年程前、教育相談の中から発達障碍(当時はあまり理解されていなかった)を持つ生徒たちへの指導の在り方が提唱されるようになりました。

生徒指導主事や教育相談担当者の研修会、講演会などを通して徐々にその内容が理解されるようになり、学校現場でも職員研修会等を開いて発達障碍への理解は浸透しつつあります。

今では各特別支援学校と連携をとり対応が必要な生徒への個別支援体制がとれるまでになっています。

確かに過去に対応に困った子供達のことを、よくよく振り返ってみれば、発達障碍を疑

わせるような行為や言動があったなと思い出されます。

私が経験した例では、非常階段でいつも弁当を食べるのだけれど何度注意してもその行為を繰り返し、これだけなら単に横着なんです、その弁当箱を置きっぱなしにして行ってしまう。それが何日も繰り返され弁当箱が山のように重ねられていく。それを指摘すると「自分のじゃない」と言う。「嘘つけ」と思って腹を立てて指導するのですが、どうも本当にそれが理解されないらしいということから、「ちょっと変だぞ」ということがありました。

今、思えば発達障碍の一種だったんだろうなと感じます。

発達障碍の代表的なものに、広汎性発達障碍（アスペルガー症候群）・注意喚起（ADHD）及び破壊的行動障碍（DBD）などがあります。

一つの物事に極端に固執したり、突然予定変更などがあるとパニックに陥ったり、落ち着きがなく、いつもイライラしているように見えるなど、表われ方は様々です。

それらに対しての正しい知識が得られてこそ、指導方法が確立され無駄な軋轢を減らし、子どもたちをよい方向へ導いていけると考えています。

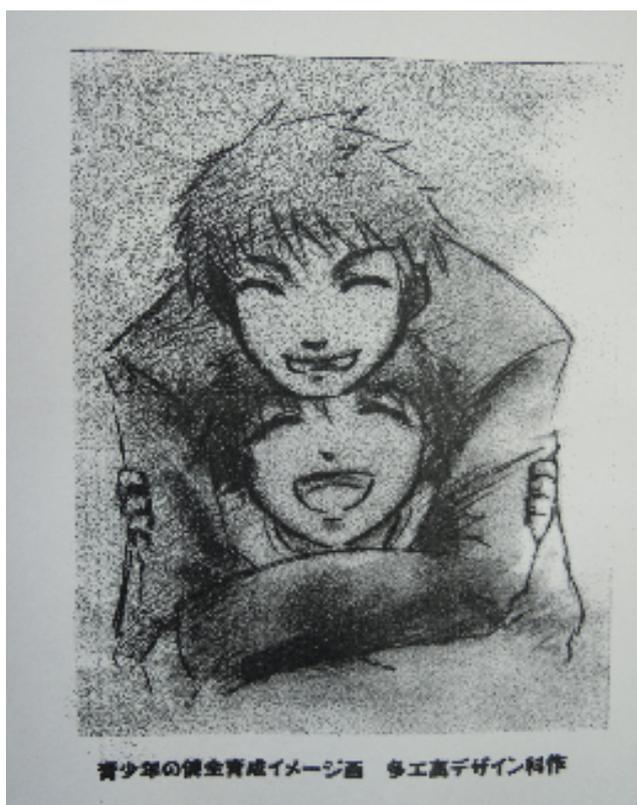
生徒との関わりの中で自分の無力さを感じるのは、機能不全家庭で育った生徒が同様の行動パターン(勝手気まま)を見せ、それが主な非行要因になっていると感じる時です。

多くの先生が、保護者と協力関係をなかなか築けず、生徒を救えない自分の無力さにジレンマを抱えた経験があると思います。子供だけの所為じゃないと思いながら厳しい指導をせざるを得ず、根本解決には至らないまま繰り返される非行に心身ともに消耗していった苦い経験が思い出されます。

教職員は多くの子供たちと接し、彼らの人生に関わりを持っていく仕事です。

それらの活動すべてが生徒指導です。

つらいこともあります。目の前にいる子供たちと一緒に、ちょっとした希望を見ていたらなあと思っています。



## 東濃西部少年センター多治見地区 少年指導員の皆様へ

多治見地区長 和田 良輔

私は多治見保護司会より推薦された東濃西部少年センターの指導員和田良輔です。そして、5月22日の委嘱式後の地区別会議では多治見地区指導部の地区長を仰せつかりました。

今年度の当地区の指導員は、各校区市民会議、民生児童委員、主任児童委員、保護司会、民生保護女性会、市内各小・中・高等学校PTAおよび、教職員の皆様の中から推薦された、総勢102名の方々に構成されています。

この中で今年初めて就任されたのは62名の方々に、この点、従来のやり方にとらわれることなく新しい目線で、少年たちの指導にあたることのできるものと信じております。

また、この度の委嘱式には86名という、多くの方がご参加くださいました。その意欲に対して感謝申し上げます。

私たちの主な活動は、多治見市内の街頭指導やJR多治見駅周辺での啓発活動など、青少年の健全育成のための『声かけと挨拶』です。また小中学校の通学路における児童、生徒の見守り、更には喫煙、自転車の2人乗り、無灯火、公共の場所での座り込み、深夜徘徊など、迷惑行為・不良行為等々、多岐にわたる彼らの行動に目配り、気配りを頂きたいと思っております。そして決して気負うことなく、やさしい眼差しで少年たちに「愛の一声」を掛けて頂ければ、必ずやその成果は「実る」ものと思っております。

多治見地区は日本一暑い夏、またそれなりに寒い冬という条件下での活動ですから、お互いに健康管理には、十分ご留意いただきたいと思っております。私もこの一年間『多治見地区指導員』として委嘱された責務を皆様とともに全う致したいと思っております。

今後とも、より一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。

## JR 多治見駅を気持ちよくご利用いただくために

東海旅客鉄道(株) JR 多治見 駅長  
山田 章博

昨年7月にJR多治見駅長として着任し一番驚いたのが、駅や自由通路を利用する一部の高校生や少年のマナーの悪さ、常識では考えられないような行動でした。

注意しても改善されず困っていた時に目にしたのが、東濃西部少年センター(以後センター)が毎月発行している「7月報」でした。その中に「高校生が屯して・・・平気で喫煙・・・トラベルにまきこまれないようにして十分注意をはらって指導しましょう」と記載されている部分があり、困っているのは私だけでないことを知り、直ぐにセンターへ電話し多治見駅自由通路等で起こっている事象を伝えました。

数日後には、センター所長が来駅され多治見駅自由通路の現状について色々なご意見を頂き、多治見駅だけの問題ではなく、市、警察、高校が一体となって取り組む問題であると認識が一致し、センター所長から関係者を集め対策を考えましょうと提案された時には大変気を強くしました。

会議が開かれるまでの間に自由通路や、売店等でいろいろなことが発生いたしました。改札口の前で7～8人が車座になり飲食、喫煙を始め、注意すればゴミ、吸殻はそのまま放置し、一番厄介なのは、唾、嘔み捨てたガム、これを駅員や清掃会社の社員が掃除するのですが、毎日繰り返されるのです。特に清掃会社の方には感謝しています。

本来市側が清掃すべき場所も清掃してくれたおかげで岐阜県で一番綺麗な駅を維持することができ、毎朝気持ちよく市民の方に駅をご利用頂けたと思っています。

売店では高校生が冷蔵庫の中に頭を突っ込み冷やしたりとか、店内で男女が喧嘩して商品のパンを投げつけるとか、考えられない行動をとっていました。極めつけは高校生10数人の喧嘩です。さすがにこれは警察が対応しましたが大変な騒動でした。

9月に入っても一向に改善されないことから、関係する高校に直接電話を入れ多治見駅で何が起きているかを伝え再度指導することを依頼いたしました。

翌日からその高校の指導担当教諭が毎朝・夕、改札口付近、自由通路を巡回していただき、座り込みや、喫煙を注意していただいた結果、その高校は改善の方向に向かいましたが、他の高校生や少年たちは一向に改善されず、ひどい時は警察の手を借りておりました。

9月15日に第1回：多治見駅(南北自由通路)環境正常化検討会議が、市、警察、高校、東濃教育事務所等の参加により開催されました。

その席上で多治見駅の現状を説明し関係各所の協力を求めたところ、多数の意見が出され関係各所の方が協力的であり心強く感じる会議でした。

多治見市の一大イベントである多治見まつりを気持ちよく迎えるためには何としても多治見駅の環境を改善しなくてはと思い、日々高校生や少年に声をかけていました。

また、指導担当教諭も巡回を継続してくれており、警察も巡回を強化していただいた結果、10月下旬から屯する少年が減り、11月上旬には通常の駅の状態に戻り、多治見まつりの日にはお客様に気持ちよく駅をご利用いただきことができました。

12月21日に第2回：多治見駅(南北自由通路)環境正常化検討会議が開催され、その席上で11月上旬から正常状態に戻ったことをご報告したところ、私が知らないところで関係各所の方が改善のために活動して頂いたことを知らされ感激しました。特に多治見警察署生活安全課長、センター所長には大変感謝しております。駅だけでは何ともならない事柄も関係各所が連携することで改善が図られる大変良い例だと思っています。

平成23年度に入り、若干、屯する少年たちがいますが関係各所の連携を密にして市民の方に気持ちよくご利用いただける多治見駅としていきたいので、今後とも関係各所のご協力をよろしくお願い致します。